

船舶事故調査報告書

令和2年5月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和元年10月26日 14時20分ごろ
発生場所	広島県広島市 ^{にの} 似島南方沖 広島港似島家下防波堤北灯台から真方位171° 1.2海里付近 (概位 北緯34° 17.7′ 東経132° 26.1′)
事故の概要	プレジャーボート ^{いしざき} 石崎丸は、錨泊中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和元年12月17日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 石崎丸、1.1トン HS3-24543（漁船登録番号）、個人所有 第270-32734号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	船内外機に濡損、船尾外板の軸穴付近に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人3人を乗せ、釣りを終了して錨を引き揚げようとしたものの、根掛かりしたので、乗船者3人で強めに引いたところ、船内外機の油圧配管を通す船尾外板の軸穴が海面下となり、海水が浸入した。</p> <p>本船は、浸水により主機を始動することができなかったので、船長が、運航不能と判断し、船舶所有者に連絡するとともに、118番通報し、来援した巡視艇にえい航されて宇品港の修理工場に到着した。</p> <p>本船は、チルト装置を装備しておらず、同装置の油圧配管を通す軸穴に鉄製の閉止蓋をしていたが、同蓋が腐食して、直径約5cmの破口が生じ、この軸穴から海水が浸水した。</p> <p>船長は、上架して船尾外板付近の点検を十分に行っていなかったと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、上架して船尾外板付近の点検が十分に行われずにいたところ、揚錨作業中に経年劣化により腐食して破口を生じていた油圧配管を通す軸穴の鉄製閉止蓋が海面下になったことから、機関室に浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、上架して船尾外板付近の点検が十分に行われずにいたところ、揚錨作業中に経年劣化により腐食して破口を生じていた油圧配管を通す軸穴の鉄製閉止蓋が海面下になったため、機関室に浸水したものと考えられる。

再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄製の閉止蓋は、経年劣化により腐食するので、定期的に上架して点検を行い、必要に応じて交換すること。 ・ 船外に装備する閉止蓋などは、ステンレス製又はFRP製など腐食しにくい材質にすること。
-------	---